

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	きょうとしりつほりかわこうとうがっこう				②所在都道府県	京都府	
26～30	① 学校名	京都市立堀川高等学校						
② 象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模		
	1年	2年	3年	4年	計			
普通科	80	20	5		105	普通科 245名 探究科 504名		
人間探究科 自然探究科	169	20 10	10 10		219			
⑥研究開発構想名	「しなやかさ」と「したたかさ」を備えた青年の育成							
⑦研究開発の概要	世界に存在する多様な文化・習慣・歴史などを理解し、踏まえて上で求められる文脈に応じた事物の価値を見出し、提示できるリーダーの育成に関する研究開発を行う。関心の高い社会課題の設定と解決に必要な教養の獲得に関する指導方法と、多様な実践機会を通して教養を活用する能力の習得に関する指導方法を研究開発の対象とする。							
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	(1) 目的・目標						
		<p>本構想における研究開発の目的は、「しなやかさ」と「したたかさ」を備えた生徒を育成するための指導法の確立とその環境整備である。ここでいう「しなやかさ」とは、自分や自分が所属する集団と異なる主張や価値観を有する人・集団に対する弾力性に富んだ「受容力」と、既存の技術の適応範囲や文化的背景に囚われずに応用しようとしたり、新たな価値などを見出すことができる柔軟な「発想力」のことである。また「したたかさ」とは、相手との文化・価値観・知識の相違から生ずる摩擦・衝突・感情的不快・苛立ちに耐えながら意思疎通をはかろうとするような、強靱な「知的耐力」と、単純化された主張に同意・反対したりするだけでなく、それらを発展的にかつ高い次元で統合・止揚したり、また、相互が利益を享受できる関係を築いていこうとするための努力を続ける粘り強い「交渉力」のことである。本校では、この「しなやかさ」と「したたかさ」が、多様性に富んだ社会の中で自立して生きていくために必要な力であるとともに、グローバル・リーダーに必要となる資質であると捉えている。</p> <p>この目的を踏まえ、研究開発の期間中には「柔軟な態度の基本となる多角的・複合的・相対的な視点を獲得させる指導法」、および「粘り強く対話・討議・交渉できる力を育成するための指導法」の開発・実施・評価を進める。</p>						
		(2) 現状の分析と研究開発の仮説						
		<p>本校では「総合的な学習の時間」を「探究基礎」と呼称し、情報活用能力、課題設定・解決能力、論理的思考力、言語能力といった探究能力の習得を目標とした課題研究を実施している。これまで本校ではSSH研究開発やIB調査研究などで、科学研究手法や課題設定の指導法の研究開発をすすめてきた。しかし、指導によって伸張させられていない能力や態度、例えば、多角的・複合的・相対的な視点、解決や解釈をうみだす発想力、自分の主張を理解してほしいという意欲、出された意見や主張を有機的に関連付けたり派生させて新たな意見や主張を組み立てる創造力などの存在も明らかになってきた。</p> <p>そこで、「『現実社会の諸問題とその背景などの教養を身につけさせる』『現実的な問題を解決しようとする』『自分や自分が所属する集団と異なる主張や価値観を有する人・集団と共同作業・議論をさせる』といった教育手法を実施することにより、「受容力」・「発想力」・「知的耐力」・「交渉力」が育成され、実施した教育手法と育成された要素の関係が明らかになる」という仮説を立て、知識や技術などの価値を判断・評価し、それを適切に他者に伝え抜く力を育成するための指導法の研究開発を進める。</p>						
		(3) 成果の普及						
		<p>課題研究に関する目的や内容、評価についての研究開発実施報告書、および取組に対する活動録を作成する。また、SGH研究開発報告会を実施する。「総合的な学習の時間」が有する潜在的教育効果を最大限に引き出すための先進的モデルを構築し、上記の方法に</p>						

	より全国に発信する。
⑧ -2 課 題 研 究	<p>(1) 課題研究内容  <u>生徒に「しなやかさ」と「したたかさ」を身につけさせるための課題研究は、その解決の過程で生徒が世界の多様な生活様式・文化・価値観・状況を理解し、それらを踏まえつつ具体的なアクションにつなげられるものである必要がある。そこで、これらの条件を満たす課題研究として、経済活動の世界・地域への貢献に関する研究、国際観光都市としての京都の価値を高めるための調査研究、世界のどのような地域であったとしても現地で使用可能な素朴な技術を応用し課題を解決するための研究などをすすめさせる。</u></p> <p>(2) 実施方法・検証評価  <u>「探究基礎」1年後期～2年前期に開設してきたゼミ（少人数講座）に、経済活動とその意義・倫理に関する研究をする「商道ゼミ」・観光に関する研究をする「観国乃光ゼミ」・素朴な技術を応用し課題を解決する手法の研究をする「ブリコラージュゼミ」などを新たに開講し、本校教員ならびに外部講師が研究指導を行う。また1年後期に実施する海外研修においては「グローバルに広がる経済活動による各地域の変容」といった共通テーマで課題研究を行わせることで、以降の活動に必要な課題解決能力や意欲を向上させる。2年後期からは研究成果（世界の各地域の伝統技術と社会的課題のマッチング・SNSを用いた外国人観光客の動態分析 など）の実用化や実際の社会貢献を目的としたチームを生徒に結成させ、提案書を書かせる。その提案を実現可能性や効果・インパクトの面で審査し、実証実験や事業化、あるいは実際の社会貢献にむけたアクションをおこすためのGプロジェクトを立ち上げさせる。これらは、生徒による活動レポートや論文、発表、および担当教員による活動評価シートなどを総合して成果の検証を行う。</u></p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等  現行の「総合的な学習の時間」ならびに課題活動で実施するため、特例は必要としない。</p>
⑧ -3 上 記 以 外	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価  諸外国それぞれに固有の課題や世界の情勢に関する見識を広げさせ、国際的社会問題に取り組む際の素養を習得させるために、<u>教科「世界史A」の学習プログラムや指導方法、評価方法に関する研究をすすめ、研究指定2年目以降の実施に向けた策定を行う。</u>授業内でアンケートを適宜実施し、生徒の感想から直接、グローバル・リーダー育成に関して、有意義な学習内容や活動内容であったかの評価を受ける。また、「探究基礎」STEP、JUMPでの活動や、テーマ設定や課題設定の助けとなったかどうかを併せて質問し、事業評価の材料とする。</p> <p>価値観の異なる他者との対話・討議において必要となる「しなやかさ」と「したたかさ」を備えた意思疎通能力を向上させるための能力開発の手法研究を行う。日本語及び英語によるプレゼンテーションやディスカッション、ディベートなどの学習活動、部活動をはじめとする課外活動を通じて、対話・討議する力の向上をめざす。各教科の観点別評価、授業者及び生徒の所感、アンケート、企業が実施する英語能力の試験などを参考に、言語運用能力の向上を検証する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等  <u>特例を必要としない。</u></p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法  本校が所在する京都市の姉妹都市の高校生とともに、ある国際的課題に関する対話・討議を行う機会の設定を検討する。堀川高校の生徒によって国際会議を企画・運営することによって、リーダーとしての人材育成の機会とする。</p> <p>上記の研究開発構想に関わる生徒諸活動の評価に関し、自らの活動に対する目標・目的の明確化と適正な評価のために、生徒によるルーブリック作成に取り組む。</p>
⑨その他 特記事項	特になし。

ふりがな	きょうとしりつほりかわこうとうがっこう	指定期間	26～30
学校名	京都市立堀川高等学校		

## 平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数									
a	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	200 人
	SGH対象生徒以外:	人	0 人	人	人	人	人	人	人
SGH事業に関する活動を含む本校の諸活動も含め、自らの意志・判断によって上記活動に取り組んだ人数の指標。									
自主的に留学又は海外研修に行く生徒数									
b	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	70 人
	SGH対象生徒以外:	0 人	0 人	人	人	人	人	人	人
教育委員会や外郭団体が主催する海外研修・留学に、本校の推薦によって参加した者も含めた人数の指標。									
将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合									
c	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	80 %
	SGH対象生徒以外:	%	5 %	%	%	%	%	%	%
進路に関する意識調査による回答人数の指標。									
公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数									
d	SGH対象生徒:			人	人	人	人	人	30 人
	SGH対象生徒以外:	人	0 人	人	人	人	人	人	人
課題研究に関する論文や発表、資料などについて、表彰された人数および受賞した人数の指標。									
卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合									
e	SGH対象生徒:			%	%	%	%	%	50 %
	SGH対象生徒以外:	4 %	6 %	%	%	%	%	%	%
GTEC for STUDENTS において680点以上を獲得した人数の指標。									
(その他本構想における取組の達成目標)									
f	SGH対象生徒:								
	SGH対象生徒以外:								
目標設定の考え方:									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(30年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	70%
	SGH対象生徒以外:		35%	35%	%	%	%	%
「グローバル人材育成推進事業」「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業」「大学の世界展開力強化事業」に採択された大学への進学者人数の指標。								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	20人
	SGH対象生徒以外:		0人	0人	人	人	人	人
当該大学への進学者人数の指標。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:		%	%	%	%	%	90%
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
卒業予定者および既卒者に対する意識・活動調査による回答人数の指標。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:		人	人	人	人	人	100人
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
既卒者に対する意識・活動調査による回答人数の指標。								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(30年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	50人
	国外における、課題研究に関する実施研修や共同研究、国際会議、発表会などの活動に参加した人数の指標。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	100人
	国内における、課題研究に関する実地研修や共同研究、討論会、発表会などの活動に参加した人数の指標。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	校	0校	校	校	校	校	校	4校
	該当大学および高校の校数指標。							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	10人
	探究基礎におけるSGHに関わる課題研究やG-Projectの指導にあたる大学教員数の指標。							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	人	0人	人	人	人	人	人	30人
	探究基礎におけるSGHに関わる課題研究やG-Projectの指導にあたる企業やNPO人材の人数の指標。							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	人	0人	人	人	人	人	人	50人
	課題研究に関する論文や発表、資料などについて、国内外の大会に参加した人数の指標。							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	人	90人	人	人	人	人	人	200人
	定期的に実施する連携校との交流、および不定期に実施する諸学校との交流による受け入れ人数の指標。							
h	先進校としての研究発表回数							
	回	2回	回	回	回	回	回	4回
	海外研修、探究基礎におけるSGHに関わる課題研究、G-Projectの実施、およびその成果を普及することを見据えた指標。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
		×						○
	海外研修、探究基礎におけるSGHに関わる課題研究、G-Projectの実施、およびその成果を普及することを見据えた指標。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標)							
	目標設定の考え方:							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	751	753	0	0	0	0	0
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							